

組織目標評価報告書（令和5年度）

部局名:

文学部

学域名:

社会文化科学学域(文)

部局長名:

田中共子

目標・取組	関連する 中期計画の番号	目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>1. 入試における志願者の確保と倍率向上を課題として、以下を実施する。</p> <p>①UAAと連携して高校のニーズや社会の動向を踏まえた教育情報の発信を行い、志願倍率の向上・安定に努める。</p> <p>②昨年度新たに導入された総合型選抜の結果を検証し、必要に応じて改善する。</p> <p>2. 新学習指導要領で学んだ学生に対応する教育改革の実質化を課題として、以下を実施する。</p> <p>①昨年度開始された、8分野から5分野への分野統合による教育体制改革の結果をフィードバックし、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>②学修者主体の学びと、教育の内部質保証の仕組みを強化するための教育プログラム改革を推進させる。昨年度開始された主専攻プログラム、人文学総合プログラム、アドバンスプログラムの成果を検証し、必要に応じて改善する。研究科との連携のもと、2025年度開始を目指して研究力養成プログラムの具体的な修了要件を定める。</p> <p>3. 環境の変化の中で学生支援と学習環境の充実を課題として、以下を行う。</p> <p>①単位の修得状況に問題のある学生やメンタルに不調をきたした学生への対応を行い、休学率の低下に努める。</p> <p>②アフターコロナの状況を注視しながら、従来の高い就職率が維持できるよう、支援の方法を工夫する。</p> <p>③アフターコロナの状況に配慮しながら、留学生の派遣、受入に関して、コロナ禍前の水準への回復を目指すとともに、新たな交流を柔軟に構想して展開を図る。</p>	(2-1) (2-2) (3-1) (4-1) (7-1)	<p>1. 入試における志願者の確保と倍率向上を課題として、以下を実施した。</p> <p>・入試広報の充実を図った。高校訪問を9校し、HPで募集を周知し、特に総合型選抜の基準点変更の周知を計った。オープンキャンパス第二部の来場制限を撤廃し、模擬授業などの動画を特設サイトへ掲載して広範囲の視聴可能にした。前期入試の倍率は1.8倍から3.1倍に増加した。</p> <p>・総合型選抜の選抜基準を見直し、新基準で運用した。総合選抜の募集人数に対する合格者の充足率は、30%から103%へ向上した。</p> <p>2. 新学習指導要領で学んだ学生に対応する教育改革の一環として以下を実施した。</p> <p>・FD委員会が懇談会を主催し、教育や学生生活への意見を収集して、教育の実践状況を確認し、可能な対応を実施した。</p> <p>・プログラム制を文学部規定に明記し、内規と整合させた。令和7年度4年次生からの研究力養成プログラム実施に向けて、大学院早期履修制度の利用に関する検討を進めた。</p> <p>3. 環境の変化の中で学生支援と学習環境の充実を課題として、以下を行った。</p> <p>・要支援学生の目安として、単位取得状況が2学期あたり15単位を下回る学生は指導教員が面談し、学生生活委員会で集約した。休学率は3.3%から2.9%に減少した。</p> <p>・部局設置の文法経学生・院生相談ルーム、全学の障がい学生支援室と連携し、継続的な学生支援を実施した。</p> <p>・就職支援のため、就職説明会を主催した。</p> <p>・学生の海外研修を単位化する授業として「異文化体験」を新設した。タイ11名、韓国10名の履修があり、教員が引率した。ほかオンラインを活用した「異文化交流演習」に18名の履修があった。</p> <p>・フランスのボルドーモンテニュー大学などと学生交流を行った。年間交流実績は、受入れ28人(ドイツ8、中国・フランス各5、ミャンマー・タイ各2、韓国・台湾・ラオス・セルビア・ポーランド・ノルウェー各1)、派遣12人(イギリス3、フランス3、アメリカ2、トルコ2、韓国2)となった。コロナ禍の落ち着きにあわせて、一層の交流回復が課題である。</p>
②研究領域		研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
③社会貢献(診療を含む)領域		社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>1. アフターコロナ時代の新たな地域貢献・情報発信の形を実践することを課題として、以下を行う</p> <p>①電子媒体の活用を含めて効果的な社会への研究成果の発信、および高大連携事業のあり方を検討し実行する。</p> <p>②文学部の特徴や研究・教育活動をより詳細に発信する手段としてHPの活用を進め、イベントの告知と報告、英語での情報発信を充実させる。</p> <p>③情報発信の効果の把握を行う。</p> <p>④SDGsに関する教員・学生の活動を支援する。</p> <p>2. 今日の社会環境の中で建設的な国際貢献・国際交流の形の実践を課題として、以下を行う</p> <p>①大学間協定・部局間協定の充実を図り、文学部の将来構想において重要となる協定校との絆を強める。</p> <p>②新規協定校との間で、新たな発想に基づく交流企画を立ち上げる。</p> <p>③日本語・日本文化研修留学生等の国費留学生を積極的に受け入れ、国際交流行事を開催する。</p>	(1-1) (7-1) (11-2)	<p>1. アフターコロナ時代の新たな地域貢献・情報発信の形を実践することを課題として、以下を行った。</p> <p>①社会に研究成果を発信するため、HPIに文学部教員が刊行した書籍の紹介頁を特設した。高大連携事業の充実のため、講演会等を高校生に解放し、シンポジウムに付設した高校生のポスター発表を指導し、オープンキャンパスでは考古資料展示室を開室した。</p> <p>②文学部の特徴や活動の詳細な発信のため、講演会・シンポジウムを行い、HPで周知し報告を掲載し、参加者の反応を把握するためアンケートを実施した。英語による発信を充実させた。</p> <p>③HP等情報発信の効果把握の一環として、オープンキャンパスで来場者アンケートを実施した。</p> <p>④SDGsに関連する活動を推進した。教員・学生による取り組み事例として、『総社モデル』の3つの基本理念(担当:中東靖准教授)のほか、3件の成果をあげた。</p> <p>2. 今日の社会環境の中で建設的な国際貢献・国際交流の形の実践を課題として、以下を行った。</p> <p>①部局間交流の充実を計り、多言語・多文化交流を推進した。タイのカセサート大学、タマサート大学で教員が講義を提供した。フランスのボルドーモンテニュー大学と研究者交流を行い協定更新の準備を進め、サヴォア・モンブラン大学とは短期研修交流の事業化計画を進めた。ほか韓国の国民大学校などと交流を進めた。</p> <p>②新規協定校であるインドネシアのドクターストモ大学の国際シンポジウムに教員が招聘された。</p> <p>③国費留学生を7名受け入れた。</p>
④管理運営領域		管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>1. 学部のガバナンス改革を視野に入れた体制作りを課題として、以下を行う。</p> <p>①学部長のリーダーシップを支える体制として執行部と委員会の連携を強化し、一貫性を備えた毅然とした学部運営に努める。</p> <p>②教育改革や組織改革では、教育の質と共に構成員の業務負担の軽減や均等化を念頭に置く。</p> <p>2. 優秀な人材を確保し、部局の活性を高めることを課題として、以下を行う。</p> <p>①採用人事では広く人材を募り、女性や外国人の採用に努める。</p> <p>②中長期的な将来展望を視野に入れた人事計画を念頭に、展望を伝えて準備を整える。</p> <p>③若手、外国人、女性など多様な構成員から意見を募る機会を設ける。</p> <p>3. 業務の複雑化が進む中で業務構造の改革を課題として、以下を行う。</p> <p>①部局内サバティカル制度(長期研修制度・特別研究期間制度)の利用に配慮する。</p> <p>②文明動態学研究所への移籍教員の業務負担を継続的に見直す。</p> <p>③学部長室の特別契約職員を戦略的な事業に関与させる。</p> <p>④財源の有効活用のため、支出構造を見直し、教育基盤経費の重点配分を進める。</p> <p>⑤リスクマネジメントの重要事項について継続的に啓発を行う。</p>	(11-2) (13-1) (14-1)	<p>1. 学部のガバナンス改革を視野に入れた体制作りを課題として、以下を行った。</p> <p>・委員会との連携と一貫性の確保のため、主要委員長が参加する学部長室会議を開催した。</p> <p>・教育改革に伴う構成員の業務負担を見直した。休業を取得しやすい職場環境構築のため、育休等の休業制度活用に向けて、ダイバーシティ推進室から講師を招いて研修会を行った。</p> <p>2. 優秀な人材を確保し、部局の活性を高めることを課題として、以下を行った。</p> <p>・優秀な女性教員の採用・昇進を実現させた。すなわち1名が年度途中に着任し、2名の新規採用が決定しており、学部内では1名の教授昇任、1名のテニユア取得が決定した。上位職が手薄なので、増員が課題である。</p> <p>・人事委員会で将来展望を協議し、人事計画に関する調整を進めた。</p> <p>・若手教員を含めた将来構想WGを運用した。</p> <p>3. 業務の複雑化が進む中で業務構造の改革を課題として、以下を行った。</p> <p>・文学部長長期研修制度の利用を推奨し、2名が取得した。他制度でのサバティカルが1名あった。</p> <p>・委員会業務等において、文明動態学研究所への移籍教員の業務負担に配慮した。</p> <p>・学部長室の特別契約職員が、学部イベントの周知に協力しアンケート集計を担った。</p> <p>・重点配分として、文学部プロジェクト経費の執行、新規の国際交流事業への支援を行った。</p> <p>・情報基盤センターから文学部へ講師を招き、情報セキュリティの研修会を開催した。</p>

注1) 本様式全体が1頁に収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。